



正垣 安博 議員

三角港の振興について

問 宇城市となつての三角港の位置づけ、今後どういう振興策をされるのか。

市長 明治20年に開港し、昭

和39年のフェリー運航後は、物流港、観光港としての役目を果たし、港あつての三角町の発展であつた。

今後は行政港としても位置づけ、海上保安部の充実や海上自衛隊佐世保地方隊の寄港地としての利活用、海の資源館の開設など必要ではないかと考えている。

問 三角島原フェリーの存続問題について、現段階での方針をお尋ねする。

市長 まちづくり交付金事業の活用も含め、県や上天草市

との交渉を行つており、会社には、何らかの対策が講じられるまでの間、運航継続の努力を要請している。

問 車で年間2万7千台余、乗船者6万人余が現在も利用している。航路自体はなくなりたくないという信念でやつていたきたい。

市長 存続させる道はないか、ぎりぎりまで探りたい。

水産業の振興について

問 漁獲量の減少、漁価の低迷、外国からの水産物の流入、加

解決できない部分については特区対応をしたい。

宇城市総合計画における松橋地域の計画について

問 松橋インターと松橋駅を中心とした交通アクセスの整備について。

市長 高速交通網への利便性

向上のため、松橋インターへのアクセス道路の整備。インターと松橋駅を結ぶ既存の県道については4車線化に向けて関係機関に要請する。

問 松橋駅周辺開発構想に

下水道事業について

問 三角町以外の地域は進んでいるが、三角は波多浦地区の集落排水事業のみである。

今後、三角地区に関してどのような状況になつていくのか。

市長 下水道事業は、本年度から不知火松合地区の整備を実施、小川地区が平成26年度に完了予定であり、それまでは財政計画に対応できないと考えている。しかし、三角駅周辺だけは早い段階でしなければならないと考えている。

市長 宇城市のファーマーズ

マーケット的な大型直売所を構想している。交通便利性に重点をおいて、道の駅誘致とセットで検討。既存施設や民業の圧迫にならないよう最大限の検討が必要。

庁舎別棟建設について

問 庁舎別棟建設ありきではなく、分庁方式の検討はなされたのか。

市長 宇城市が将来発展していくため、本庁中心で業務を行わないと合理的、効率的に行えない。

地域振興策について

小川地域活性化インターチェンジの建設計画と、併せて工業団地の建設について、今後どのように建設促進されるのか。

市長 インターチェンジの建設促進については、利用者の利便性をにらみ、スマートインターチェンジ等時代のニーズにあつたインターチェンジの建設を視野に入れ検討する。また、旧小川町で策定された蓮仏地区51haを工業団地として開発する構想を、市と

の健康を守るのは、行政がやるべきことである。

問 胸膜肥厚斑の登録者で8月以降亡くなつた方は何人か。

福祉部長 8月から4ヶ月で12人である。

問 支援法が成立すると救済対象になる可能性がある。死亡原因のチェックはどうなつていくのか。

助役 死亡届の段階での判断しかしていない。

問 肺がんや中皮腫等、アスベスト関連で亡くなつてい

る人は救済対象になる。確実

支所庁舎の有効活用について

問 不知火支所、小川庁舎の今後の利用方法をお尋ねする。

市長 不知火支所は生涯学習センター、小川支所はくらしのセンターやインキュベーションセンター等を考えているが、今後市民や議員の意見を踏まえ、最も有効な活用を図っていく考えである。

人事問題について

問 公募も試験も行われず職員を採用した理由は何か。

助役 試験によることが不適当と市長が認める職であるから。

問 職種は何で、試験ではなぜ不適当なのか。

助役 運転手であり、ハードな勤務なので二人にする。

問 選考委員会の裁量権でかなりの人まで選べることになる。就職が厳しいとき、人事は公明正大にやつてほしい。



平野 保之 議員

少子化対策について

問 現在の少子化に対する現状認識、またその対応策について、どのように考えているのか。

らの贈り物という意味で、若干内容を变えて検討したい。

就学前医療費の支払方法について

問 市になつて就学前医療費が無料になった。早急に現物支給にすべきだと思うが、どう考えているのか。

福祉部長 十分医師会と協議してまいりたい。

問 出来ると確信がある。来年度予算に反映させていた

は大きい。復活できないか。

福祉部長 敬老という心か